



Title	米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係（毒ガス問題）第一次移送(4)(サンフランシスコ総 外務省外交史料館レファレンス番号：nd)
Author(s)	-
Citation	平成25年度外交記録公開(1)No.1 公開日：平成25年10月30日 外務省外交史料館管理番号：A'.3.0.0.7-1(207) CD・DVD番号：H25-001
Issue Date	
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43780
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

サンフランシスコ線

ソカヒ

大政事外外務官
務務典房
次次
巨官直審審長長
備録入厚計
備録入厚計
備録入厚計

国長参調折企
参領旅移

ア参地中東
長北東西
参北北保
中南審
参西東洋
長西東

近ア参審近ア
長経次総経国万
長経参賀統二
参政技二
国一理
参条協親
長国参政経科
長国参社專
長備参道内外
長文長

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

107

総番号(TA) 337/
 71年1月23日16時45分 サンフランシスコ 米北/
 71年1月24日09時58分 本省着

外務大臣殿 原 大使 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワのドクガス撤去問題

第21号 略 至急 (ゆう先処理)

大臣 務在米大使あて米北/第133号に関し
 早速、在ソールト・レークの日系有力記者に本件ライター
 電につき照会したところ、ランプトン知事が特に調査にあ
 たりしめた専門家がヒツジがドク草を食べた結果なる旨同
 知事に報告公表した由であり、右はソールト・レーク・デ
 セレット・ニュース等の地方紙に報道された趣である。
 右とりあえず。
 米。オキナワに転電した。

(丁) (12:20 千葉米北/課長に連絡済 電信課)

外務省

ソカヒ

大政事外外務官
務務典房
次次
巨官直審審長長
備録入厚計
備録入厚計
備録入厚計

国長参調折企
参領旅移

ア参地中東
長北東西
参北北保
中南審
参西東洋
長西東

近ア参審近ア
長経次総経国万
長経参賀統二
参政技二
国一理
参条協親
長国参政経科
長国参社專
長備参道内外
長文長

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

469

総番号(TA) 368/
 71年1月25日18時30分 サンフランシスコ 米北/
 71年1月26日12時05分 本省着

外務大臣殿 原 大使 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワのドクガス撤去問題

第24号 平 至急

往電第21号に関し

本件を報道した23日付THE SALT LAKE T
 RIBUNE紙及びDESERT NEWS紙が当館に接
 到したので、関係記事要旨下記の通り報告する。
 なお右記事切りぬきは明26日の臨時パウチで追送する。

記
 1. THE SALT LAKE TRIBUNE紙
 10. 22日ランプトン州知事は州じゆうい(動物のい師
)ショーエンフェルドはかせと共に記者会見を行ない「/
 。180とうのヒツジの死因はHALOGETONとよぶ
 ドク草であり、三ヶ所の研究所で行なつた検死の結果この
 結論に達した。このドク草は州一帯に広くはん植している
 が、ヒツジがこれを食べてもカルシウム成分を与えるか
 。あるいは水分を十分与えれば死の危険はほとんどない。
 ユタ州立大学の放射線専門家ペンデルトンはかせによれば
 ヒツジの死は原子放射線によるものでなく、また現場から

外務省

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

数マイル離れたユタ州立大学のこう野（あれ野）放ぼく実験場におけるさつちゆう済あるいはその他の有ドク物質の使用によるものでもない。」と述べた。

ロ。 ユタ州立大学の放ぼく科学学科のスミスはかせは「この種の損害は定期的に発生しており、1920年にオレゴン州において1,700とうが死んでいる。」と述べている。

ユタ州立大学の記録によれば、1945年にアイダホ州の各地で2,645とう、1960年にアイダホ国境近くで1,100とう、1964年にユタ州で850とう死んでいる。

2. DESERT NEWS紙イ。 ショーエンフエルドはかせは記者会見において「気候の急激な変化によりユキが急速にとけたためヒツジはHALOGETONに水分と食物を頼っていたのではないかと思われる。」と答えた。

ロ。 DESERT TEST CENTERのスポークスマンは、「1969年以後如何なる種類のドク物の空中実験をも行なっていない。」と発表した。

州知事は、「もしも原因が放射能にあるとすればヒツジが1ぼんのうちに死ぬということはおかしい。」と述べた。
原子力委員会のスポークスマンは、「12月の地下実験に

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

よるおせん調査の結果ギャリソン地域に一部おせんのあとが見られることは確かであるが、今回の原因が原子おせんによるものでないということは新しい証拠によつて示されている。」と語った。

米。オキナワに転電した。

(了)